

少年バスハイジャック事件について

NPO 法人 武士道協会

=====
NPO法人 武士道協会は、現代日本社会が心の中から崩れてゆきつつあることを案じて、元財務大臣・塩川正十郎を中心に集った有志により結成された組織です。

私たちは、日本古来の武士道精神に思いを致しつつ、現代の時代性を加味し、この国の精神面の礎を築いてゆきたいと願っています。

この目的に向かい、武士道協会は、昨今の日本に起こっている様々な異常な事件や世相に対して、役員一人ひとりの見解を発表して、現代社会に警鐘を打ち鳴らして参りたいと考えています。

今回は、矢作理事（元筑波山権宮司）が執筆致しました。ご一読頂ければ幸いです。

—家庭教育が遅すぎる—

14歳の少年が好きな少女との交際のために、友人から借金をしようとして親に叱られ、家出をしてバスジャックをしたというニュースを見た。子供教育が全く役に立たないどころか、教育をしていなかったのではないかとさえ思えた。

少年も悪いが親のほうが数倍悪い。なぜこのようなことが起こるかといえば、親は子供が生まれたとき、しっかりと教育をしようと考えもしなかったに違いない。ただ可愛がるばかりで叱ったことがなかったのであろう。3歳から5歳ぐらいの間で親は子を厳しく育て、親のこわさを充分に教えておかなければならない。そのためには、一度や二度、ビンタやゲンコツを見舞っても良い。真の愛情からの仕置きは決して悪い方には働かず、子は親の偉さ、こわさを充分に知ることができる。親はあとはニラミを効かせるだけで良い。本人が途中で良い子であったことは、学級委員になったことから知れるが、思春期になって好きな子ができはじめる親の力は及ばない。あとは、相談に乗ってやることで、叱ってはならない。子供のとき叱っておけば、思春期になっても親の意見を聴く人間に成長する。

つまり、家庭教育が遅すぎるのである。長い間少年たちを見てきて、戦後の教育が失ったものの大きさをつくづくと感じている。鉄は熱いうちに打て、教育は幼児期に行え、教誨師25年の心からの願いである。

平成20年7月18日

特定非営利活動法人武士道協会

理事 矢作幸雄

プロフィール：1934年、茨城県生まれ。国学院大学に学び、1961年、大洗磯神前神社権禰宜。鹿島神宮禰宜、筑波山神社権宮司等を歴任。神社本庁教誨師として1983年より水戸少年刑務所に6年、茨城農芸学院に20年、収容青少年の相談指導にあたる。1992年と1998年に、筑波大学大学院非常勤講師をつとめる。歴史考房回帰洞を主宰。鹿島神宮教学顧問、鹿島新当流彰古会顧問、鹿島神流武道連盟顧問。著書に『ともしび』（1962年にNHKテレビドラマ放映）、『やまとたけるのみこと』『にっぽんばんざい』『古代筑波の謎』など多数。

=====
特定非営利活動法人 武士道協会

<http://www.bushido.or.jp/>

■理事長：塩川正十郎

■事務局連絡先：info@bushido.or.jp

TEL 075-681-5514 FAX 075-682-3565

〒601-8411 京都市南区西九条北ノ内町11番地 (株)PHP研究所内

担当/西尾晴夫(にしおはるお) 平日(月~金)9時~17時

(携帯 090-5015-0938)

=====
※協会の詳しい資料をご希望の場合はご連絡ください。